

第8号

発行年月：2013年4月



日本医療ソーシャルワーク学会ニュース

目次

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 巻頭言 会長あいさつ 2. 岩手大会 大会案内 3. 岩手大会実行委員会との打ち合わせ 報告 4. 地区研修報告 <ul style="list-style-type: none"> (1) 研修報告 (2) 研修の感想 | <ul style="list-style-type: none"> 5. 国際活動部報告 6. 養成課程に関する調査・研究の経過報告 7. 日本医療ソーシャルワーク学会の受託事業の報告 8. 九州・沖縄ブロック研修会のご案内 9. 事務局からのお願い(会費について) |
|--|---|

1. 会長あいさつ

学会長 村上 須賀子(兵庫大学)

春は別れと出会いの季節です。教育現場からは医療ソーシャルワーカーの「ひな」たちが巣立っていきました。正直なところ、現場の教育力頼みで、申し訳ない思いとともに送り出したと言えます。新人を迎え入れ、いかにして「MSWに成らせて」いけるか、各先輩たちは心を砕き、悩みを深めていることでしょう。

社会福祉士国家試験科目に「保健医療サービス」が入っているものの、本学会の「養成課程に関する調査・研究」(6p)で横山豊治理事が触れているように「医学一般」から「人体の構造と機能及び疾病」にカリキュラム変更されて、医療分野の知識は以前に増して不十分になっています。カンファレンスで飛び交う医療・医学用語が理解できないで他のスタッフから不信をかうことになったり、中には転院相談の電話口で「右片麻痺」を「右肩？右肩が麻痺してるんですか？」と問い返したMSWがいたなど笑えないエピソードも聞かれます。

社会福祉士の国家資格を持っていても必ずしも医療現場での実習経験があるとは限らないカリキュラム構成です。ソーシャルワーク業務の教育の前にまず医療の世界の独特な文化を教えることから始めなければならない例もあることでしょう。

MSWとして医療現場経験29年、その経験を基にして、四つの大学でMSW講座を立ち上げて教育現場経験16年を重ねました。それゆえ、新卒者の入職後のショックと落ち込みも、現場のスーパーバイザーであるMSWの苦労も想定できます。満開の桜のしたでも忸怩たる灰色気分です。教員に

成ってみて、国家資格の縛りがかからない限り、教育現場では質を担保する教育へは向かい難いことがよくわかりました。ケアマネジャーや心理領域の国家資格化が急浮上する時、いつまでもMSWが卒後の現場教育を頼りにする専門職で良いのかと改めて想う春です。

しかし、皆さん。患者さんを前にして「忸怩の中」に留まってはられません。

本学会としては、まずは後輩を迎えたMSWたちへスーパービジョンのスキルを身につけていただくための研修を強化いたします。昨年の学会広島大会のワークショップ、そして九州地区研修でも圧巻ぶりを示してくれた竹内一夫副会長のスーパービジョン研修でスーパーバイザーを倍々増させる計画です。竹内副会長を始め本学会の理事たちはその道の実力者が揃っています。各地で研修会の企画があれば出かけて行きます(たぶん)。事務局にご相談あれ。

他方、学会初の自費出版である「医療ソーシャルワーカーの力——患者に寄り添う専門職——」の本が厚生労働省を始め、各界に広報力を発揮しています。この本のもとになった月刊誌「病院」の連載「医療ソーシャルワーカーの働きを検証する」はこの4月号80回で終了しましたが、日総研グループ情報誌「隔月刊 地域連携入退院支援」から「今日の医療ソーシャルワークに求められる視点と役割」とのテーマで学会に連載原稿依頼がありました。地道に認知度を上げ、地位向上を目指した活動を続けたいと考えています。

2. 第4回日本医療ソーシャルワーク学会岩手大会のご案内(第3報)

暦の上では春ですが、盛岡では最低気温が氷点下の日もあり、まだ道路のあちこちに雪が残っています。春が待ち遠しい、そんな今日この頃です。

さて、岩手大会の概要をお知らせします。なお、初日ですが、前回ニュースで開始時間を13時としていましたが、10時開始に変更しました。お間違え無いようにお願いします。

また、大会案内(7月下旬の予定)に先立ち、下記のとおり学会発表(調査研究、実践報告等)の募集を開始いたします。締め切りまでの期間が短いため、準備が大変かと思いますが、ぜひたくさんの方にご発表いただきますようよろしくお願いいたします。

①日時：平成25年10月13日(日)10時～
10月14日(月)12時

②会場：アイーナ(いわて県民情報交流センター)
盛岡市盛岡駅前通1丁目7-1
※盛岡駅(西口)から徒歩4分です。

③プログラム：

10月13日(日)

10:00～ 開会式

10:30～ 12:00 特別講演

『「死」を見つめ、「生」と向き合う』(仮題)

講師：復元納棺師 笹原 留似子

※被災した沿岸部の遺体安置所で約400人の遺体を復元し納棺するボランティア活動を行った方です。著書も出されています。internet等で情報をご覧になって下さい。

12:00～ 13:30 昼食

13:30～ 15:30 リレートーク

「大規模災害とソーシャルワーカー」

15:45～ 17:45 学会発表

18:30～ 懇親会

10月14日(祝)

9:15～ 11:30 ワークショップ及び学会調査研究報告

※入院相談、ケア会議、老健支援相談員のスキルアップなど5つのテーマ

11:30～ 11:50 全体会・閉会式

④被災地ツアー：

10月12日(土)13時～(予定)

盛岡駅発着⇄陸前高田市

岩手県内で一番多くの犠牲者が出た陸前高田市を見学する予定です。料金(交通費)は4,000円程度を見込んでいます。

盛岡市から陸前高田市は、バスで片道2時間30分位かかり

岩手県医療ソーシャルワーカー協会 会長 山舘 幸雄

ます。長時間の乗車となりますが、この機会に被災地を訪れてみてはいかがでしょうか。



※右写真は「奇跡の一本松」

震災前は約7万本の松があった陸前高田市の高田松原海水浴場。今回の大震災で松林はすべてなぎ倒されましたが、津波に耐えて、奇跡的に一本だけ残りました。残念ながら、塩害で枯れてしまいましたが、市民の要望でモニュメントとして復元される予定です。

第4回日本医療ソーシャルワーク学会 演題の募集及び抄録原稿の提出についてのご案内

来る2013年10月13日・14日の両日、岩手県盛岡市のアイーナ(いわて県民情報交流センター)において、「第4回日本医療ソーシャルワーク学会」を開催いたします。

つきましては、プログラムの一つである「学会発表」(10月13日15:45～17:45)について演題を募集します。

各締切日をご確認のうえ、会員の皆様方の多数のご応募をお待ちしています。

- 1 発表は日本医療ソーシャルワーク学会員(共同研究者はこの限りではありません。)
- 2 医療ソーシャルワークの実践報告・調査研究等に関すること
- 3 方法は口頭発表のみ。1演題につき発表7分、質疑応答5分程度
- 4 なお、発表者も大会参加費等ご負担願いますので、ご了承ください。

[演題申込締切]2013年7月31日(水)(当日消印有効)

※Microsoft WordでA4縦1ページ(概ね1,000文字程度)に、①発表者氏名、②所属、③共同研究者がいれば、その氏名・所属、④連絡先TEL及びE-mailアドレス、⑤演題のテーマ、⑥概要を記載し、大会事務局(岩手県医療ソーシャルワーカー協会事務局)宛にメール(添付ファイル)で送ってください。e-mail: iwatemsw@drive.ocn.ne.jp

[抄録原稿提出締切]2013年8月30日(金)(当日消印有効)
※演題受付後、担当者から抄録原稿の様式・ページ数等について連絡いたします。

3. 「岩手大会準備始まる」 ―現地実行委員会との打ち合わせ報告―

竹内 一夫(兵庫大学)

現地実行委員会から学会事務局に、第2回目の打ち合わせを1月27日に行うという連絡を頂きました。豪雪を気にしながら現地に向かいましたが、無事JR盛岡駅で山館会長と合流し、学会会場となるアイーナ(いわて県民情報交流センター：駅より5分)を下見させていただき、その後、岩手医科大学の会議室で行われている現地実行委員会に合流いたしました。会場は申し分ない立地条件です。

学会本部としては、既に、東日本大震災3年目を迎え、MSWとして被災現地から、災害支援の在り方を改めて学ばせてもらうことを主眼にしたプログラム構成の希望を伝えておりましたが、現地実行委員会もそれを踏まえて検討を進めてくださっておりました。計画案では、前日の陸前高田市への被災地の復興状況の視察や、視察参加者の学びと、現地のこれまでの取り組みを合わせ、支援の在り方についての学びをさらに深めようという、翌日のリレートークという新企画も

おこされ、また基調講演として計画されている、災害時の多くの傷ついた遺体の修復に取り組まれた復元納棺師の笹原氏のお話は、災害時のターミナルケアの在り方を、MSWとして考える良い機会になると感じました。

さらに今後、実行員会で原案を練り上げ、より良きものにしていこうという熱い思いに満ちた論議は、夕方暗くなるまで絶えることなく続いていました。降り積もった雪が昼間の日差しで解け、再び凍りつき足元が滑る中、懇親会の下見会を兼ねた夕食に出かけましたが、これまた現地のお酒も食べ物も言うこと無し。エポックメイキングな大会になると期待を胸に、関西に戻ってまいりました。

今回の岩手大会も会員の皆様の学びに直結し、専門性を深めていく有意義なものになると確信しています。今から参加のご準備を。

4. 地区研修報告

(1) 研修報告

地区研修担当：中川 美幸(早良病院)

平成25年2月16日(土)14:00～17:00

テーマ：「カンファレンスを考える」

講師：長尾病院 院長 服部文忠

大牟田市立病院 MSW 北嶋晴彦

会場：早良病院 3階会議室

参加者：34名

当日は、岡山県や鹿児島県指宿市からもご参加頂き、研修はそれぞれの講師の方からの講演、模擬カンファレンス、グループディスカッション、シェアリングという内容で行われた。

多くの参加者から、「カンファレンスの目的、カンファレンスでのMSWの役割について改めて確認することができた」「模擬カンファレンスはイメージが出来て大変参考になった」という感想を頂いた。

研修会全体を通して、参加者からの積極的な質疑や、グループディスカッションでの活発な討議が行われ、学びながら元気になる研修会となった。



平成25年2月24日(日)10:00～16:30

テーマ：特別企画「スーパービジョン」

講師：兵庫大学 竹内一夫(副学会長)

会場：早良病院 3階会議室

参加者：31名

昨年の広島大会で竹内先生のワークショップを受けた福岡の会員より、「是非、竹内先生のスーパービジョンを受けたい」との声が上がり、特別企画としてブロック研修を企画した。

当日は福岡県内のみならず、広島や鹿児島からも参加申し込みがあった。

研修は1日で、午前中はスーパービジョンについての講義が行われ、午後は個人スーパービジョンを行って頂き、それを録画し、再度先生に解説して頂きながら学ぶという内容で、充実した研修であった。

研修会終了後のアンケートには、「スーパービジョンについて学問的なことから学ぶことができ、有意義で楽しく受講

出来た」や経験の若いMSWからは「スーパービジョンは怖いというイメージで避けていたが、先生のスーパービジョンを見てスーパーバイザーとしての準備や心構えなど学べ、是非、スーパービジョンを受けたいと思った」や「再度、企画してほしい」というような感想が寄せられた。

是非、来年度も「スーパービジョン」の研修を企画したいと考えている。



(2) 研修の感想

「カンファレンスを考える」研修会に参加して

医療法人相生会 新吉塚病院 今村 友紀

この度、九州沖縄ブロック研修に参加致しましたので、簡単ではありますが、研修会の内容と感想をご報告させていただきます。

まず、長尾病院の理事長兼院長でいらっしゃる服部文忠先生より、ご専門のリハビリテーションについてのご講演を頂きました。リハビリテーションにとって必要な因子を単に片麻痺状態などの「機能障害」とだけ捉えるのではなく、ADLなどの「能力低下」や、家に帰れないなどの「社会的不利」といった因子も含めて双方向的に問題を捉える事で、当該リハビリテーションの意義や目標、治療や援助の方法が導き出されるという事でした。また、他職種が横断的に連携したチーム医療の重要性や、リハビリテーションもシステム理論を活用、実践していく事の必要性を示されました。

続いて、大牟田市立病院のMSW・北嶋晴彦さんよりカンファレンスの定義や意義、目的についてのご講義を頂きました。効果的な質の高いカンファレンスを行う為には以下の3つの点を理解、活用する事が大切との事でした。一つ目は、カンファレンスという活動そのものの定義や意義、目的を十分に理解する事。二つ目は、情報共有が進み相互作用が活発化するグループダイナミクスを活用する事。そして最後に、チームのプロセスを管理し、チームワークやチームの成果を引き出すファシリテーションを活用する事が挙げられました。

その後、模擬カンファレンスを基にグループワークが行

われました。模擬カンファレンスでの良い点を出し合った上で、MSWの役割をまとめ、『MSWは、「社会的不利」に対してより専門的にアセスメントし、専門的見地に基づいて意見する事が重要な役割であり、その役割を果たす事でより意義のあるカンファレンスを構築できるのでは。』等の意見が発表されました。

私自身、これまでカンファレンスの意義や目的は漠然としか理解していなかった様に思います。カンファレンスにおいてMSWが一専門職として役割を果たす為には、基本的なアセスメントやプランニングの技術を高めるだけではなく、専門的見地を的確に発言できるプレゼンテーション能力も必要だと感じました。今後は、今回学んだ事を職場にフィードバックし、より有意義なカンファレンスの構築に取り組んでいきたいと思っています。



「カンファレンスを考える」研修会に参加して

原土井病院 占部 久美

2012年度 第3回九州・沖縄地域ブロック研修に参加致しましたのでご報告申し上げます。

今回の研修会は、長尾病院院長の服部文忠先生と大牟田市立総合病院MSW北嶋晴彦先生より、それぞれの立場からカンファレンスの意義について講義がありました。特に印象深かった内容を一部ご紹介致します。

服部先生の講義では、リハビリ医療は、患者の疾病ではなく社会的不利にまず注目することであり、チーム医療は、MSWだから・・・と自ら仕事の枠組みを決めつけない柔軟さが必要であることを学びました。

次に、北嶋先生の講義では、グループダイナミクス(集団力学)やファシリテーションを上手く活用することでより効果的にカンファレンスを行うことができ、チームの結束力が高まると患者支援にもよい影響があるということを知りました。

後半では、公開模擬カンファレンスを見た後にグループに分かれて、模擬カンファレンスの良かった点やカンファレンスでのMSWの役割について話し合いました。参加者からは、発言しやすい雰囲気づくりの大切さや、ファシリテーターの

重要性、MSWもプレゼン力や質問力を身に付けることが必要などの意見がありました。

近年、チーム医療や他職種連携が重要視され、MSWもカンファレンスを企画したり、参加する機会も増えています。何のためにこのカンファレンスを行うのか、そこでのMSWの役割は何か、目的意識を持つことで、カンファレンスの内容がより充実すると感じました。また模擬カンファレンスをみることで、具体的な進め方も学べ、実践にすぐに役に立つ内容ばかりで、大変有意義な研修会だったと思います。ご講義頂いた講師の先生、研修会を企画運営して下さった関係者の方々に心より感謝申し上げます。



「スーパービジョン」研修会に参加して

安芸太田病院 有光 憲子

今回の研修は竹内先生が実際は22時間かけるところを5時間で行ったと言われた通り、凝縮された内容でした。研修中印象的だったのは、分からないことがあればその場で止めて質問していいですよと先生からも参加者に確認しながら丁寧に進められたことでした。

研修ではスーパービジョンとは何かを、実践を支援する方法としてのスーパービジョンをはじめ、スーパービジョンが持つ機能、スーパービジョンの種類と主に個別スーパービジョンの展開をグループワークや体験を通して学ぶことができました。

実践を支援する方法としてのスーパービジョンでは、事例検討、事例研究との違いやその他カウンセリングやソーシャルワークとの違いを挙げて学ぶことができました。スーパービジョンの種類の中でも一人でも行える自己スーパービジョンの実際を演習し、また個人スーパービジョンの一連の展開をビデオ撮影しながら行い解説を聞くことで理解を深めることができました。

また、自分がスーパーバイザーになった時に自分の傾向を

理解する1つの方法として交流分析を用いた自己分析やさらにその結果から自分を変える処方箋を知ることができたり、スーパービジョンを受ける際に事例をまとめる方法としてエコマップやアセスメントを復習したり、実際にミニ事例を使って事実と真実とを区別しニーズや問題の本質を考える演習をしたりとケースを振り返るヒントや捉え方を学ぶこともできました。

これほどに盛りだくさんの内容を3千円で学ぶことができ、とても贅沢な時間でした。研修を企画いただきありがとうございました。



5. 国際活動部報告

三原 博光(県立広島大学)

2012年7月7日に広島市で開催された第3回日本医療ソーシャルワーク学会で特別講演されたドイツNRWカトリック大学バイリッヒ教授の「ドイツの医療ソーシャルワークの実情」が、2013年度の本学会誌に掲載されます。内容は、ドイツの医療ソーシャルワークの基本理論と老人福祉領域にお

ける実践が紹介されています。

バイリッヒ教授は、2013年7月にもドイツ医療福祉関係者を伴い、来日される予定です。そして、滞在中、村上須賀子会長、加藤洋子事務局長などと会い、日本の学生や医療福祉関係者とも交流を深めたいと考えられています。

6. 養成課程に関する調査・研究の経過報告

—アンケート調査ご協力への御礼—

教育主担理事(養成課程担当)・調査・研究(養成課程担当) 横山 豊治

当学会では、2012年度総会で承認された事業の一つとして、昨年末まで会員の皆様に、医療ソーシャルワーカー(以下、MSW)の初任者教育の実情と望まれる卒前教育のあり方に関するアンケート調査を実施させていただきました。

ご存知の通り、MSWの採用にあたっては社会福祉士資格を要件とする医療機関が多くなっていますが、2009年度から導入された社会福祉士養成の新カリキュラムにおいては、「医学一般」(60時間)の後継科目といえる「人体の構造と機能及び疾病」(30時間)が制度上、必修科目から選択科目の位置づけとなり、要介護状態を理解するのに役立つ「介護概論」(30時間)がごく一部の内容のみ「高齢者に対する支援と介護保険制度」(60時間)の中に吸収され、独自科目としては廃止されるなど、傷病者を支援する専門的なソーシャルワーカーが受ける卒前教育として見た場合、重要な改定が行なわれました。

一方で、精神保健福祉士養成の新カリキュラムでは、精神保健福祉援助実習(180時間以上)において精神科病院での実習を90時間以上必須化する改定が行なわれていますが、社会福祉士養成の相談援助実習では、ジェネリックなソーシャルワーカーの養成に主眼が置かれているため、MSW志望者

が必ずしも病院実習を経験するとは限らないという状況が続いています。

こうした背景を受け、当学会としては、新卒のMSWが入職した場合にどのような卒後の初任者教育が行なわれているのか、また、MSWの現職者や経験者が、卒前段階におけるどのような養成教育を望んでいるのかを明らかにし、MSW養成のあり方について検討していくことには社会的な意義があるものと考え、このたび、会員の皆様にご協力をお願いしました。

結果については、詳しい分析が済み次第、あらためてご報告しますが、調査票の回収状況は以下の通りでした。お忙しいなか、多岐にわたる質問項目への回答にご協力いただいた会員の皆様に深く感謝申し上げます。

「医療ソーシャルワーカーの人材養成に関するアンケート」

【実施期間】2012年10月1日～12月31日

【調査票発送数】265通

【調査票回収数】67通

【回収率】25.3%

7. 日本医療ソーシャルワーク学会の受託事業の報告

事務局長 加藤 洋子(兵庫大学)

兵庫大学と日本医療ソーシャルワーク学会が共催で、障害福祉教育センターオープンカレッジ「ケアマネージャー・スキルアップ講座」を開催しました。

兵庫大学において、平成24年12月1日～2月3日迄で7回の講座を行いました。

現場で働く介護支援専門員を対象に実施しました。兵庫大学副学長の「介護保険制度の現状と課題」の講座から始まり、医療ニーズの捉え方、ケアマネジメント、ケアプランの作成等、座学と演習をグループで行い、最後には、事例発表して頂きました。

当学会の村上会長をはじめ大学の専門教員と現場の医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員とのコラボレーションで行った研修だけに最新の知識と技術を提供できました。参

加された方は、13名でしたが、じっくり演習に取り組むことができた様子で「医療が必要な高齢者のマネジメント、ケアプランの作成方法が理解できた」「勉強になった」「実務に生かせる」など、大変好評でした。

本研修は、学会が兵庫大学から委託事業を受託しましたので、事務企画料として、10万円の学会収入とすることができました。

今後も、学会理事や会員とともに、皆さまの地域で医療を必要とする高齢者・障害者・患者のために医療ソーシャルワーカーとしてお役に立てるよう、また学会が地域に貢献するとともに、ネットワークが広がり医療ソーシャルワーカーの知名度を高める活動をしていきたいと思っております。

8. 九州・沖縄ブロック研修会のご案内

九州・沖縄ブロックで研修会を開催します。ブロック以外からの参加もできますので、ぜひご参加ください。詳細は、別紙のチラシをご参照ください。

テーマ:「スーパービジョン」

講師: 竹内一夫先生(兵庫大学 健康科学部 看護学科 教授)

日時: 2013年7月28日(日) 10:00～16:00

場所: 早良病院 3F会議室(福岡市西区姪の浜2-2-50)

参加費: 学会員 4,500円、非会員 5,000円

お問い合わせ: 早良病院 MSW 中川 美幸

Mail: nakagawa@sawara-hp.jp

Tel: 092-881-0735(相談室直通)

9. 事務局からのお知らせ

【会費納入のお知らせ】

- 平成24年度より、年会費が**5,000円**となっております。
お間違えないよう、2013年6月30日までにお振り込みください。
- 過年度分の年会費納入がお済みでない方がいらっしゃいます。
お急ぎお納めくださいますようお願いいたします。

郵便振込口座記号番号 : **01760-2-140617**
加入者名 : **日本医療ソーシャルワーク学会**
納入の際は、通信欄に「平成〇年年会費」とご記入ください。

財政的に、厳しい状況での学会運営となっております。
学会事業推進のため、皆様のご理解・ご協力よろしくをお願いいたします。

お問い合わせ先：日本医療ソーシャルワーク学会 事務局（竹内・森崎）
e-mail: takekazu@hyogo-dai.ac.jp Fax: 079-427-9928

編集後記

新しいスタッフを迎えられた方、転職して新しい職場に移られた方、それぞれの春を迎えられてみなさま大変お忙しくされていると思います。学会ニュースも第8号の発行になり

ましたが、今年度も定期的にお届けできるようにと思っています。

広報担当：高木 成美（広島市立広島市民病院）

発行：日本医療ソーシャルワーク学会
（The Japanese Society of Medical Social Work）
編集：日本医療ソーシャルワーク学会 広報担当
印刷：広島中央印刷株式会社
事務局：〒675-0195 加古川市平岡町新在家2301
兵庫大学 生涯福祉学部 社会福祉学科 加藤洋子研究室
TEL&FAX 079-427-9955
URL：http://www.jsmsw.jp
E-mail：jsmsw.secretariat@jsmsw.jp